行政区における「男女共同参画」に関するアンケート結果

令和７年３月
南会津町教育委員会生涯学習課

調査概要

１　調査の目的

町民の最も身近な地域社会である「行政区」における男女共同参画の取組状況を把握し、今後の事業展開の参考とするため。

２　調査対象

町内全行政区（区長）

３　調査期間

令和６年１２月１７日（火）～令和７年１月２４日（金）

４　調査方法

各行政区長宛てにアンケート用紙を配布・回収

５　回答率

８４．２％（配布数：９５　回答数：８０）

【設問別回答】

問１　あなたの行政区には、女性の役員はいますか？

いる	29
いない	51

女性の役員がいる行政区は29区（36.3%）となっています。

問１－１　問１で「いる」と回答した方へお聞きします。
女性の役員が就いている役職は何ですか？（複数選択可）

区長	1
副区長	1
会計	10
庶務	4
書記	0
監査	4
その他	22

〈その他の内容〉
・理事・常任委員・住宅管理人・保健協力員・民生児童委員・環境衛生推進委員
・林業センター管理人・集落運営委員・体育委員・婦人会・公民館長

問２　行政区の役員は何人いますか？

男性役員の合計	516人
女性役員の合計	55人
合計	571人

女性役員の割合は9.6%となっています。

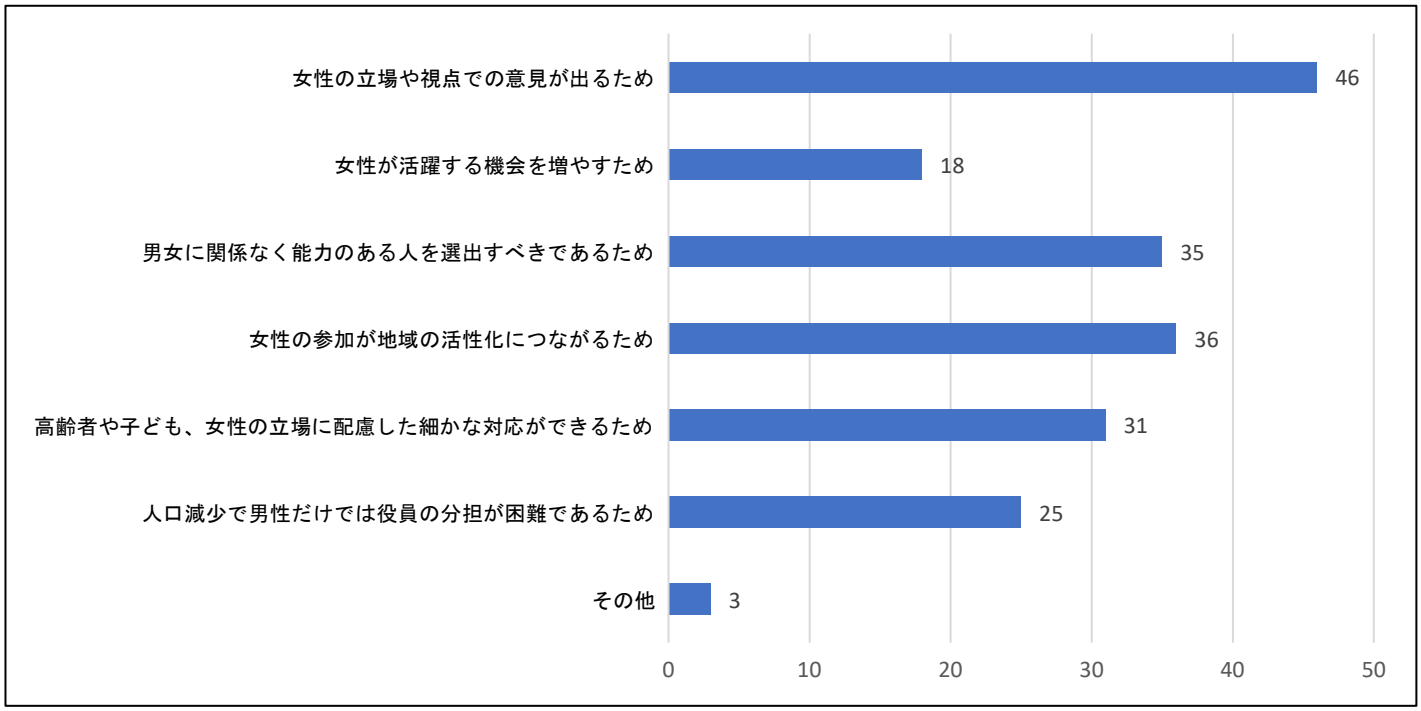
※区によって「役員」のとらえ方が異なるため、参考としての割合です。

問３　役員に女性の参画は必要だと思いますか？

必要	59
必要ではない	3
どちらとも言えない	17
無回答	1

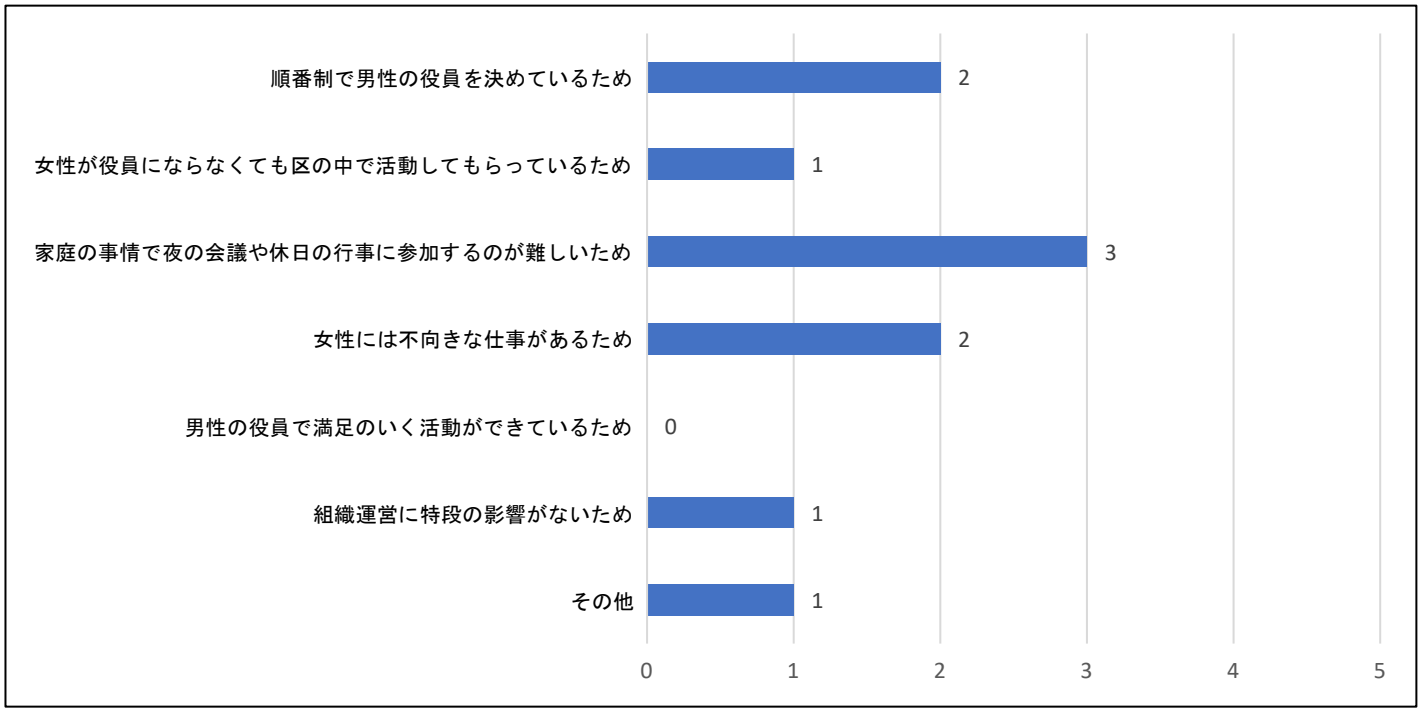
役員に女性の参画は「必要」と回答した行政区は59区（73.8%）となっています。

問３－１　問３で「必要」と答えた方へお聞きします。
必要だと思う理由は何ですか？（複数選択可）



〈その他の内容〉
・センター管理のため、ガス、茶碗、掃除用具などに気配りがきく。
・まだまだ女性だからという理由で区の運営にまざらない方々が大勢いるから。
・特に役員にこだわらない。区の人口が少ないので皆の考えをできるだけ集約したい。

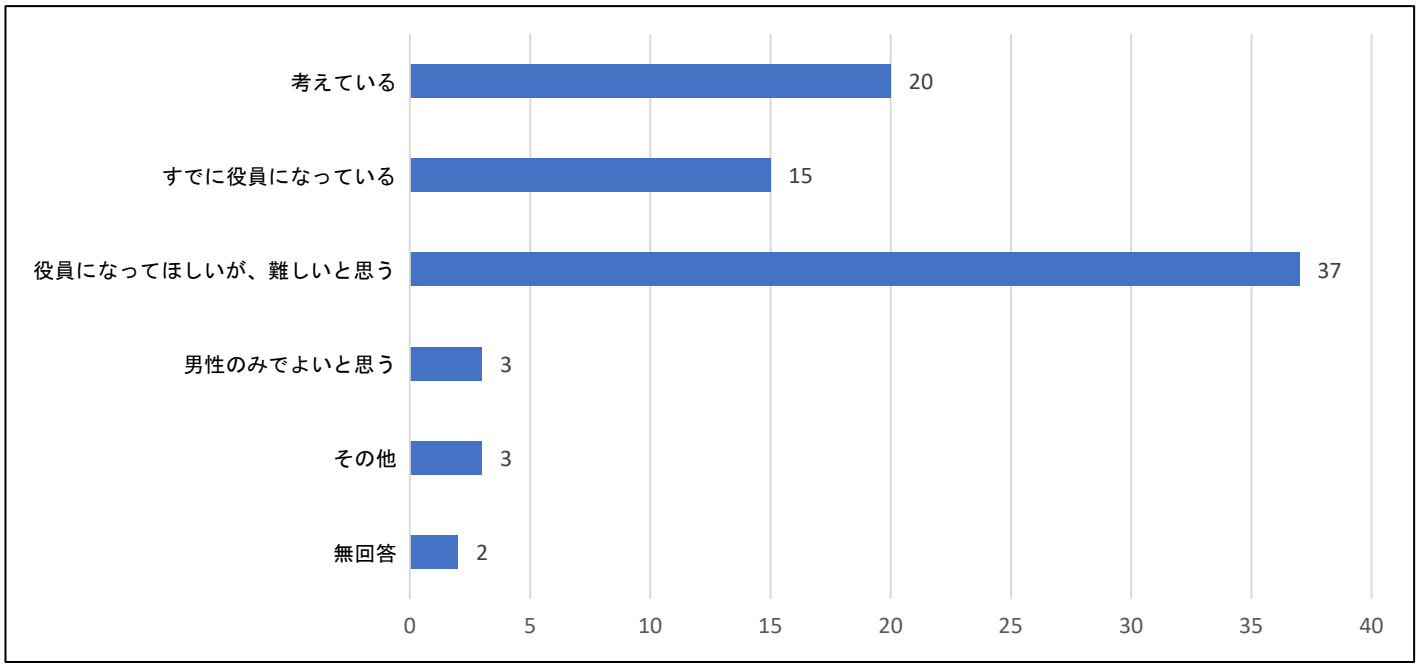
問３－２　問３で「必要ではない」と答えた方へお聞きします。
必要ではないと思う理由は何ですか？（複数選択可）



〈その他の内容〉
・男性役員に女性の視点から出る意見を伝えてもらっている。

７割を超える行政区で女性の参画は「必要」と回答しており、これからの区の運営に女性の立場や視点を必要としています。
一方で、「必要ではない」と回答した行政区では、順番制で役員を決めていたり、家庭の事情で会議や行事に参加するのが難しいといった理由があげられました。

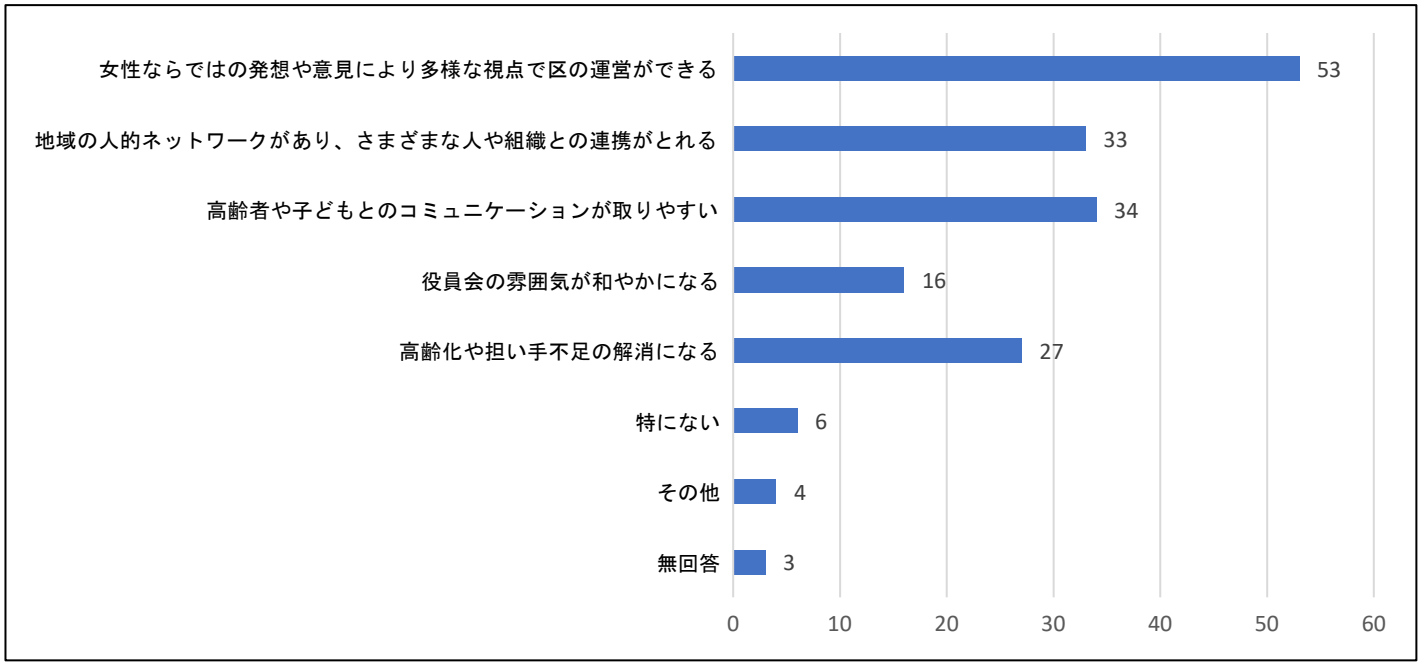
問４　今後、役員に女性の登用を考えていますか？



〈その他の内容〉
・区長のなり手がいないので男女問わず。
・希望があればいつでもなれる環境です。
・婦人会として参加すれば十分。

女性の登用について、「役員になってほしいが、難しいと思う」と回答した行政区が37区（46.3%）で最も多く、次いで「考えている」が20区（25%）、「すでに役員になっている」が15区（18.8%）となっています。

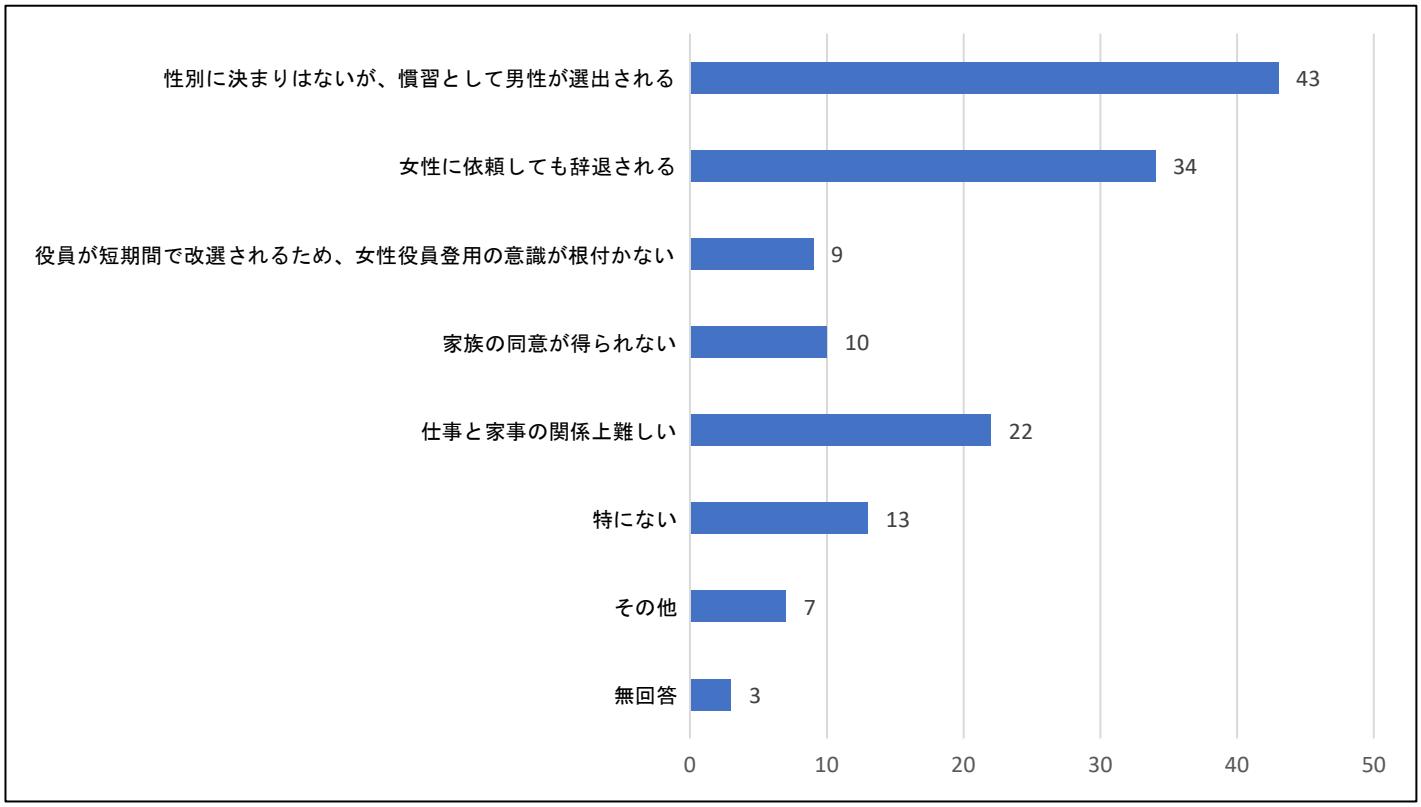
問５　女性が役員になることにより、どんな効果がありますか。
また、どんな効果が期待されますか？（複数選択可）



〈その他の内容〉
・事業によっては、女性ならではの力が発揮できる（料理の提供等）
・地区で食事を伴う会合があった場合など、良い案が出る。
・女性でも男性でもその個人の問題で、性別による何らかの効果を期待しない。

女性が役員になる効果としては、74区（92.5%）で効果があるとしており、特に「多様な視点で区の運営ができる」と回答した区が53区（66.3%）と最も多い回答となりました。

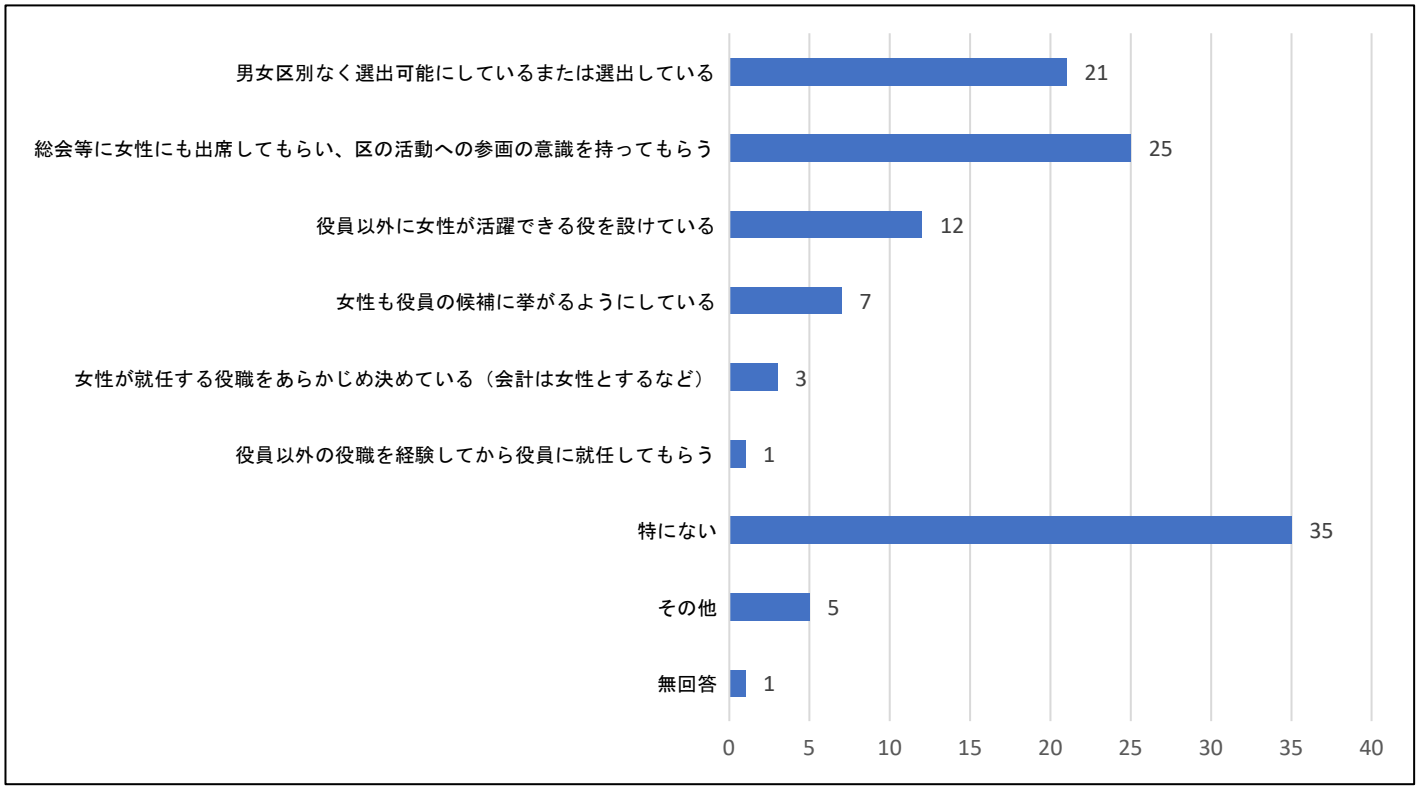
問６　女性が役員になることについて、どんな課題がありますか？（複数選択可）



〈その他の内容〉
- 男性の役員選出がむずかしい中で、さらに困難。
- 女性登用の提案が出てこない。今までの習慣が根付いている。
- 労務作業出役が年間を通じて多く、現実的に女性役員は難しい。
- 村内や駅回りの草刈りや早朝の除雪仕事を担当してもらうことになる。
- 現役員で共通理解を図ること。
- 女性に向く役職が少ない。今回はたまたま夫のいない方で林業センターの近くだったので管理人になってもらった。
- 各種行事等に参加も少なく、現実的には難しい状況にあります。

女性が役員になることへの課題としては、64区（80%）で「ある」としており、「慣習として男性が選出される」と回答した区が43区（53.8%）と、半数以上の行政区の課題となっています。

問７　あなたの行政区では、女性が役員になれるような工夫を
なにかしていますか？（複数選択可）



〈その他の内容〉
- 令和7年度に意識調査をし対応する。
- 保健委員等可能な限り女性に参加を求めている。
- 今のところ、区の役員が問1-1にあるような役職なので、たいがいは夫になる。そこで、例えば「会計は女性」とか「婦人会の役員（会長）も役員に入ってもらう」などとすれば女性も役員に入りやすいと思う。今回のアンケートで改善した方がよいと思うのは、各地区でどういう役職があるのかを質問していないこと。問1-1に一応書いてあるが、この他に何があるのか質問してはどうか。そして女性が入りやすい役職のある地区があれば、それを各地区に広めていけばよいと思います。
- 男性・女性性別を考えることなく適任の人を選ぶ。
- 区の役員をやる人がいないので、性別に関係なく今後は区の運営が難しい。

女性が役員になれるよう工夫していることについては、「特にない」と回答した行政区が35区（43.8%）で最も多い回答となっています。

問８　あなたの行政区で、男女共同参画を進めるために取り組んでいること
（取り組もうとしていること）があればお書きください。

・男女区別なく参加し、活動に協力できるように「手伝い」の言葉をできるだけ使わないようにしている。

・すべての行事を男女共同参画で実施している。

・区の団体の役員として、事業執行上事前会議の参加と執行時の大会・行事の役員として参加活動の機会はあり意見は求めている。

・婦人会、長生会は解散となりました。区全体としては区役員会のみです。他、子供育成会が存在しております。女性も役員として活躍しておりますが、若い親であり、仕事に従事しているためなかなか区の役員を兼務するのが難しいのが現状です。

・各種活動に女性同士で声をかけ合い参加を呼びかけていることで、参加者が少し増えてきているので、役員までつなげていきたい。

・女性が地区の行事に参画してもらえるよう、女性部を組織して炊き出し訓練を主体的に担ってもらっている。

・課題：高齢化（世帯・人口減）による集落存続の維持
取り組んでいること
①集落維持と地域づくり事業の2本立て（区長：農地の保全、神社、祭り、電柵等の鳥獣対策等。ふるさとづくり会：ふるさと公園、加工場を拠点に特別漁区、直売所、特産品づくり等）
②「生涯現役、みんなが主役」を合言葉に何事も全員参加（それぞれの立場でできる範囲で参加し、みんなで責任を担う支え合いによる地域づくり。従来の仕組みや組織にこだわらないでできる範囲でみんなで協力すること）

・すべての行事に全員参加。

・地区行事として地蔵講を行っているが、運営についてはすべて女性の方に任せているので、この行事を通しながら行政区役員への関心を高めたい。（仕事・家事での両立が難しい）

・役場からの地区支援者の女性の方にお願いしたい。

・普段の会話の中で女性の実力を話題に出している。

・花壇の草むしり、苗植えなど。

・区役員はずっと男性がやってきており、民生委員や保健委員はほぼ女性がやっている。毎月サロンを実施しているし、花植え等は女性の参加が多い。

問９　男女共同参画に関するご意見やご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

・町としてしっかりと取り組んでいただきたい。

・定年退職者や仕事をしていない方へは依頼できるが、仕事に従事している人は役員との両立は難しいので依頼しにくい。

・少子化が進んでおり、今後自然に女性が前面に出て活躍する機会は増加すると考えられます。無理に男女共同などと言わなくても、男女共同参画に移行します。現に今、かつてから比較するとかなり女性の活躍・進出は表面化しています。

・ふれあいサロンを2ヶ月に一度取り組んでいるが、区の役員（男性）が2～3人参加するが、あとは婦人会で協力することになっているので、女性が5～6人で合計7～8人で行っています。これを婦人会主体にしてほしいと話したが「最初が区の主催だったのでそのままで良い」ということになっており、婦人会は「おつきあい」となっている。なかなか難しい。

・問6のように地域の現状においては、若い人も少なく難しい状況にあります。

・それぞれの地域課題に応じ各種団体、大学等の連携による特色ある小さな拠点づくりが、集落の維持発展（男女共同参画）に有効だと感じます。小さな取り組みからスタートし、地域の不安を展望に変えていく。

・みんなの意識で男性のみということはない。しかし、今まで男性から選んだ慣習はある。区での協議会等も基本、一家から一人出ることになっているが、やはり男性が出席している現状。一家の男性が出れない場合は女性が出ることもある。

・この事業に対する行政区への補助支援があれば知りたい。

・「女性が」「女性は」「女性も」など考えている時点で、性差別のように感じます。そんなことを考えなくても良くなることが、共同参画になると思います。女性の意識、男性の考え方を共に変えていければ良いなと思っています。

・男女共同参画ということは、女性にも男性と同じ責任と任務が発生してきます。そうした場合、男性と同じような労力を求めるのはかえって逆効果になるのでは？

・区総会、役員会等を開いても、参加、出席者が3～4名位であります。区の役員を決めるのも難しい。大変です。

・時代の流れで、自然発生的に女性が共同参画できるようになると思う。そうなってほしい。

・若い人がいないので難しいのでは？

・高齢者福祉が必要なため、これからは民生委員を補助する立場を作る必要があると思う。

・高齢化が進み、若い男女が少ない。町全体で定住とか雇用を考えないと共同参画は難しい。

　身近な行政区における女性の登用状況は約4割となっています。約半数の行政区で女性に役員になってほしいと考えてはいるものの、慣習として男性が選出されたり、仕事や家庭との関係上役員になるのが難しかったりといった課題を抱えています。
　人口減少や高齢化により、区の運営そのものが難しくなってきているなか、地域を活性化させていくためにも、女性の参画は欠かせないものとなっています。
　今回のアンケート調査の結果を参考とし、今後の事業展開を進めていきます。